



サンコール株式会社

～ 平成28年3月期 決算報告 ～

平成28年6月2日

代表取締役社長 山主千尋

将来予想に関する注意事項

本日の説明および配布資料には、当社に関する業績見通し、計画、方針等の将来予想に関する記述が含まれています。これら将来予想に関する記述は、現時点で入手できる情報に基づき作成しており、既知または未知のリスク、不確実な要因その他の要因を含んでいます。これらのリスク、不確実な要因その他の要因による影響を受けることがあるため、当社の実際の業績、事業活動や財政状態が、将来に予想に関する記述に明示または黙示される内容と大きく異なる場合があります。当社は、この資料に記載されている将来予想に関する記述についてこれらの内容を更新または修正して公表する責任を負いません。

サンコール株式会社 決算報告

1. 会社概要

2. 決算報告

- 平成28年3月期 決算要約
- 平成29年3月期 業績見通し

3. 中期経営方針

サンコール株式会社 決算報告

1. 会社概要

2. 決算報告

- 平成28年3月期 決算要約
- 平成29年3月期 業績見通し

3. 中期経営方針

会社概要

所在地	京都市右京区梅津西浦町14
設立	1943年(昭和18年)6月
証券市場	東京証券取引所第一部
代表	代表取締役社長 山主千尋
資本金	48億8百万円(平成28年3月末)
従業員数	(連結)2,336名 (単体)543名



沿革

(平成28年3月末現在)

- 1943年(昭和18年)に航空機エンジンの弁ばね国産化のため「三興線材工業株式会社」として設立。当社設立母体は伊藤忠、丸紅、岸本商店3社が合併してできた三興株式会社。
- 戦後、GHQの要請により陸軍小倉工場にあったドイツ製自動ばね巻き機を購入移設し、トラック用エンジン弁ばねの生産を開始。
- 1952年自動車メーカーにエンジン弁ばねの納入を開始。
- 1985年ハードディスクドライブ用サスペンション技術を米国企業から購入、超精密分野へ参入。
- 1989年エンジン弁ばね生産拠点を米国に設立、以降、グローバル生産体制を推進。
- 1996年インクジェットプリンター用送紙ローラーの生産開始。
- 1998年光通信用コネクタの生産開始。

グローバル体制



6ヶ国 12法人 13拠点

国・地域	生産品目	国・地域	生産品目
アメリカ インディアナ州	弁ばね、リングギアほか 	中国 広州	弁ばね、リングギアほか 
アメリカ サウスカロライナ州	光通信部品の販売拠点 	中国 広州	弁ばね用材料の販売拠点 
メキシコ アグアスカリエンテス州	弁ばね用材料、リングギア 	中国 佛山（合弁会社）	弁ばね用材料 
メキシコ アグアスカリエンテス州 （合弁会社）	シートベルト用ぜんまいばね 	中国 天津	リングギア 
		中国 深圳 香港	プリンター用ローラー、光通信部品ほか 
		タイ チョンブリ県	弁ばね、リングギア、 シートベルト用ぜんまいばね プリンター用ローラーほか 
		ベトナム ハノイ	プリンター用ローラーほか 
		韓国（合弁会社）	シートベルト用ぜんまいばね材料 

サンコール株式会社 決算報告

1. 会社概要

2. 決算報告

- 平成28年3月期 決算要約
- 平成29年3月期 業績見通し

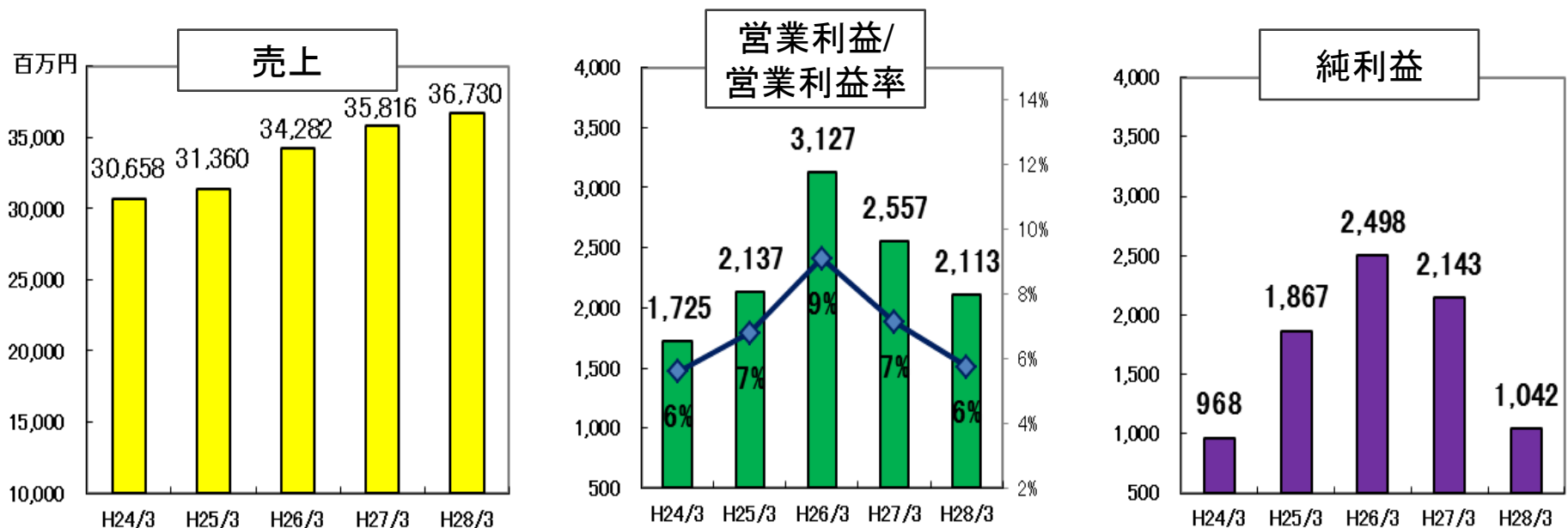
3. 中期経営方針

平成28年3月期 連結決算要約

(単位:百万円)	平成27年3月期	平成28年3月期		
	実績	実績	前期比 増減額	前期比 増減率
売上高	35,816	36,730	+914	+2.6%
営業利益	2,557	2,113	△444	△17.4%
経常利益	3,352	1,522	△1,830	△54.6%
当期純利益	2,143	1,042	△1,101	△51.4%
一株当たり利益	67.58円	32.87円	△34.71円	---
平均為替レート 円/USD	109.94円	120.15円	+10.20円	---
円/EURO	138.78円	132.58円	△6.20円	---

- ・ 売上 :自動車関連事業 / プリンター関連事業の販売増により前年比2.6%増収
- ・ 営業利益 :HDD用サスペンションの減収、不採算部品の販売増、メキシコ子会社の量産準備費用増などにより前年比17.4%減少
- ・ 経常利益 :為替差損、合併会社投資損失の計上などにより前年比54.6%減少

連結業績推移



- 売上** : 5期連続増収。自動車関連事業 / プリンター関連事業の販売増により前年比2.5%増
- 営業利益** : H26/3期をピークに減益。HDD用サスペンション需要減と新製品立上げ遅延、不採算部品の受注増、メキシコ子会社の量産準備費用増などにより前年比17.3%減少、営業利益率は1%減少
- 純利益** : H26/3期をピークに2期連続減益。
 為替差損▲282百万円(*)、合併会社投資損失▲464百万円、投資有価証券売却益162百万円(*)などの特別損益計上により前年比51.4%減少 (※)税後換算影響額

平成29年3月期 業績見通し

【前提】

- 為替レート : ドル=107円 / ユーロ=121円を想定
- 需要動向
 - 自動車関連事業 :
主要客先の生産台数は堅調に推移、北米、中国で受注増
 - HDD用サスペンション :
需要回復による販売増

【事業リスク】

- 為替レート : 外貨建て取引増加により、過度な為替変動による業績への影響
- 需要動向 : 主要客先の生産・販売減少による業績への影響
- 事業会社業績 : メキシコ子会社の量産準備状況による業績への影響

平成29年3月期 連結業績見通し

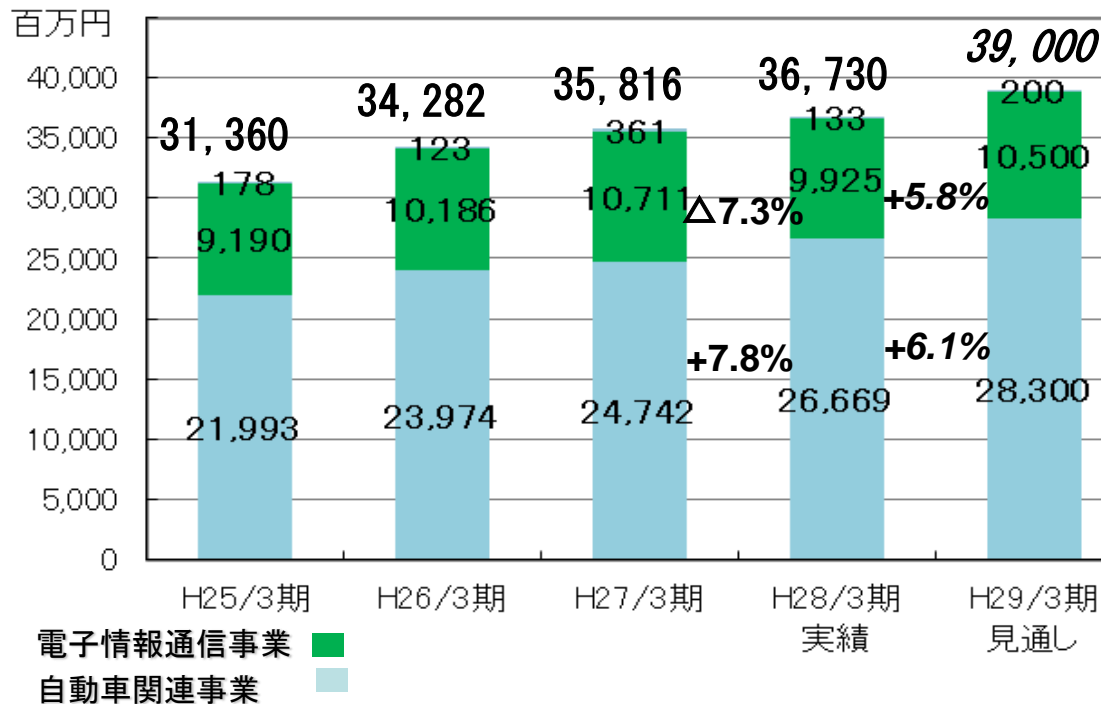
(単位:百万円)	平成28年3月期	平成29年3月期		
	実績	見通し	前期比 増減額	前期比 増減率
売上高	36,730	39,000	+2,270	+6.2%
営業利益	2,113	2,000	△113	△5.4%
経常利益	1,522	1,700	+178	+11.6%
当期純利益	1,042	1,100	+58	+5.5%

1株当り当期純利益	32.87円	34.66円	+1.79円	---
平均為替レート 円/USD	120.15円	107.00円	△13.15円	---
円/EURO	132.58円	121.00円	△11.58円	---

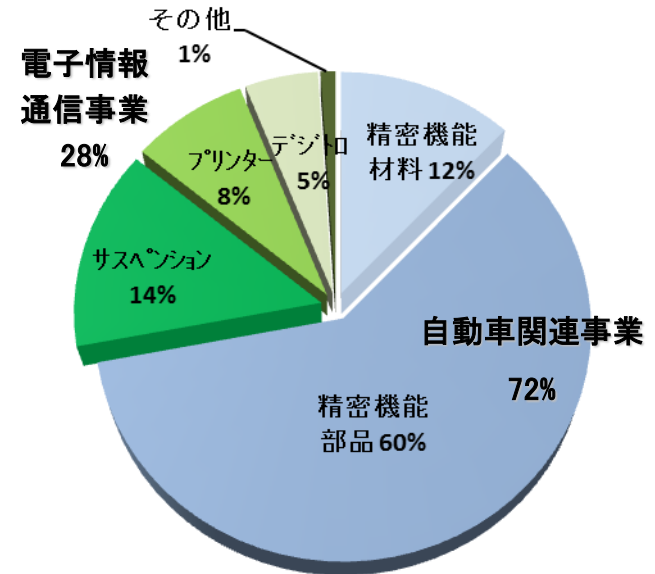
- ・ 売上 : 自動車関連事業 / HDD用サスペンションの販売増により前年比6.2%増収
- ・ 営業利益 : 為替レート変動による影響、HDD用サスペンションの需要回復は下期偏重、単価下落、メキシコ事業会社の固定費増加により前年比5.4%減少
- ・ 経常利益 : 前年度特別損益による影響除外により前年比11.6%増加

事業・製品別売上

売上推移



売上比率



— H28/3期

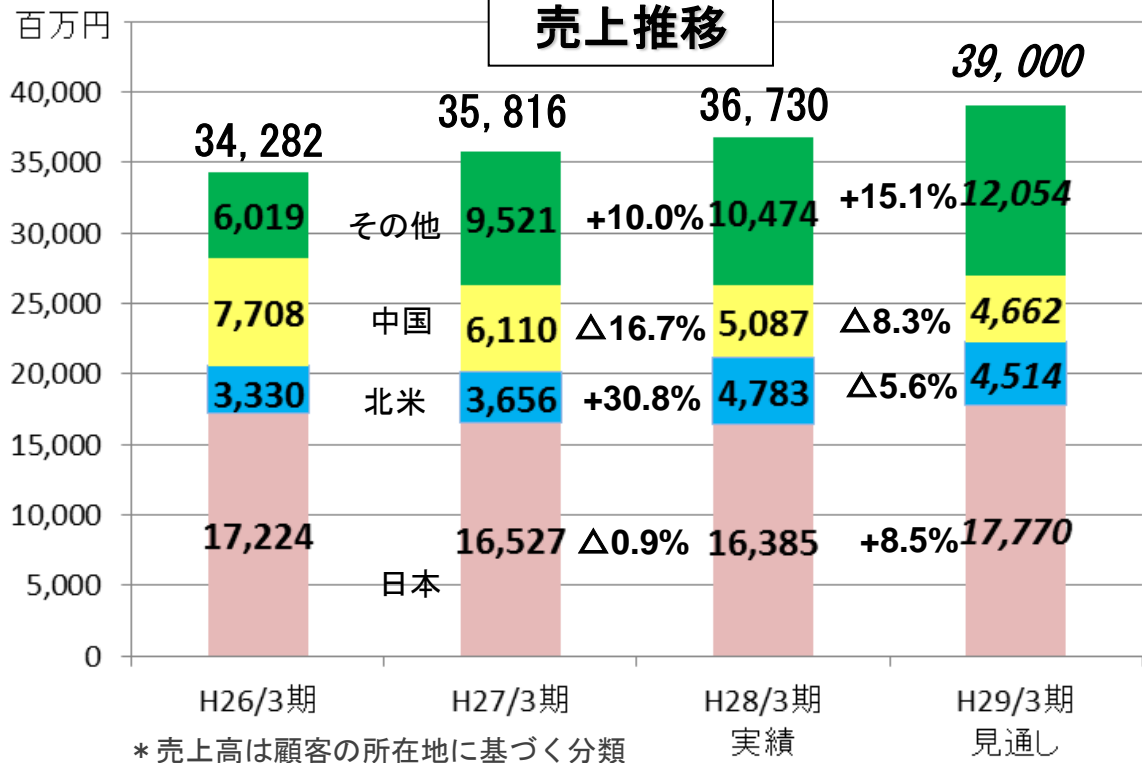
- 自動車関連事業は米国・中国販売増により前年比7.8%増加
- 電子情報通信事業はHDD用サスペンションは販売減、プリンター関連事業がベトナム・タイで伸長し、事業全体で前年比7.3%減少

— H29/3期見通し

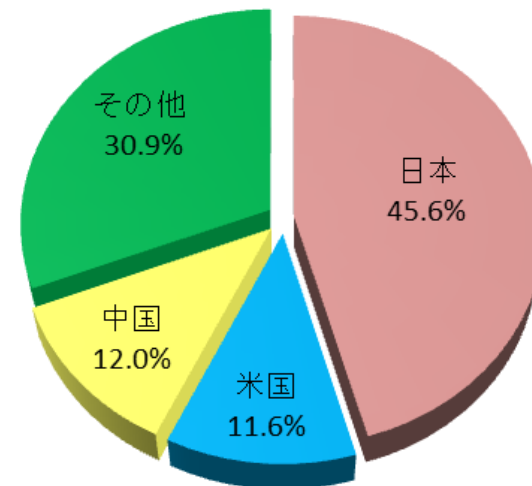
- 自動車関連事業は中国需要が堅調、メキシコ子会社の量産開始により前年比6.1%増
- 電子情報通信事業はHDD用サスペンションが下期より受注増、プリンター関連事業はベトナムで減収を予想、事業全体で前年比5.8%増

地域別売上

地域別
売上推移



地域別
売上比率



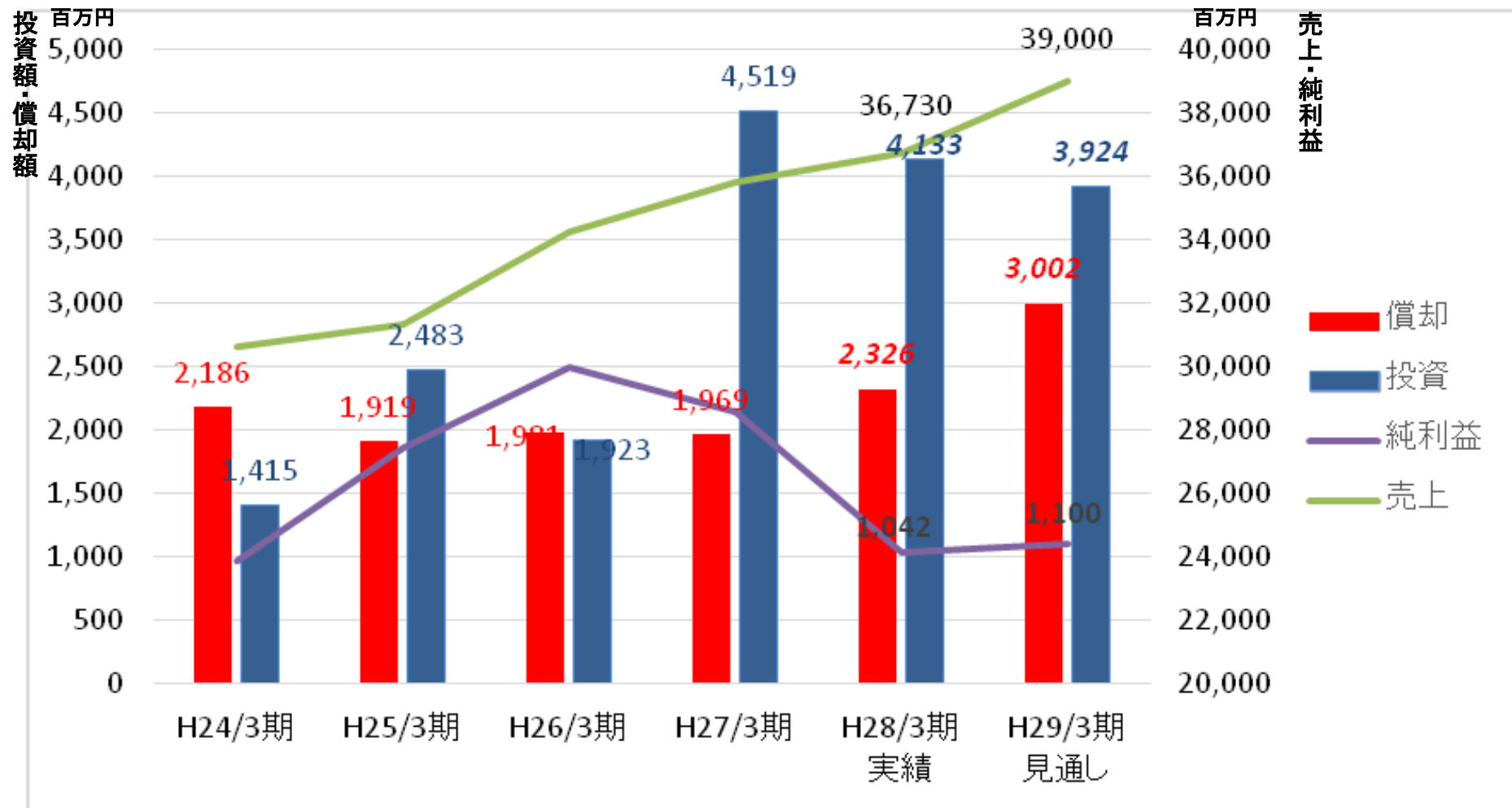
— H28/3期

- ・ 北米 : 自動車関連事業の販売増
- ・ 中国 : HDD用サスペンションの需要減
- ・ その他 : ベトナム、タイにてプリンター関連事業の販売増

— H29/3期見通し

- ・ 日本 : ミッション系部品の受注増予測により、増収の見込み。
- ・ 北米 : 為替レート影響により減収
- ・ 中国 : HDD用サスペンション移管による減少
- ・ その他 : メキシコ量産開始、ベトナム プリンター関連事業は需要減の見通し

投資実績・見通し

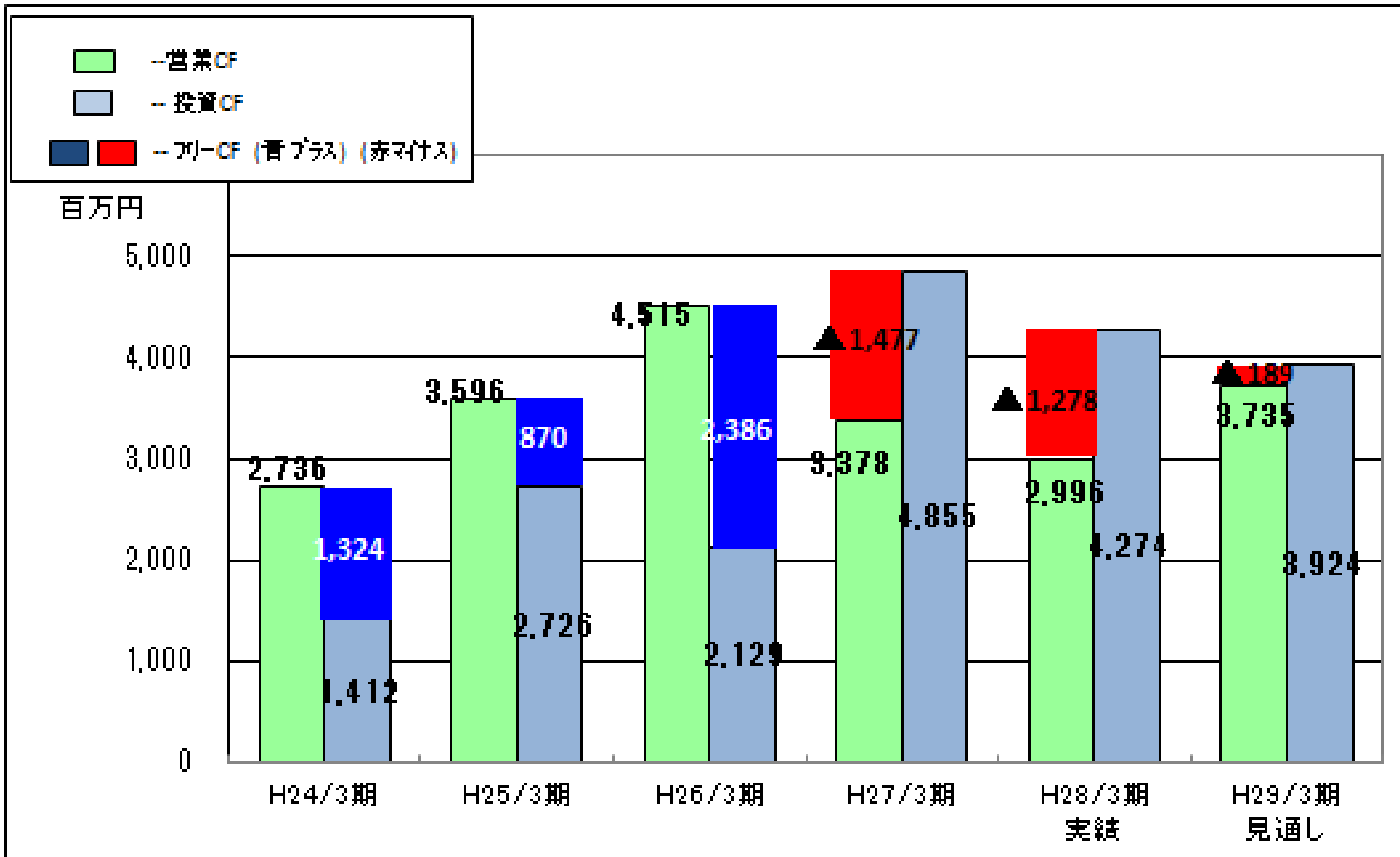


投資金額

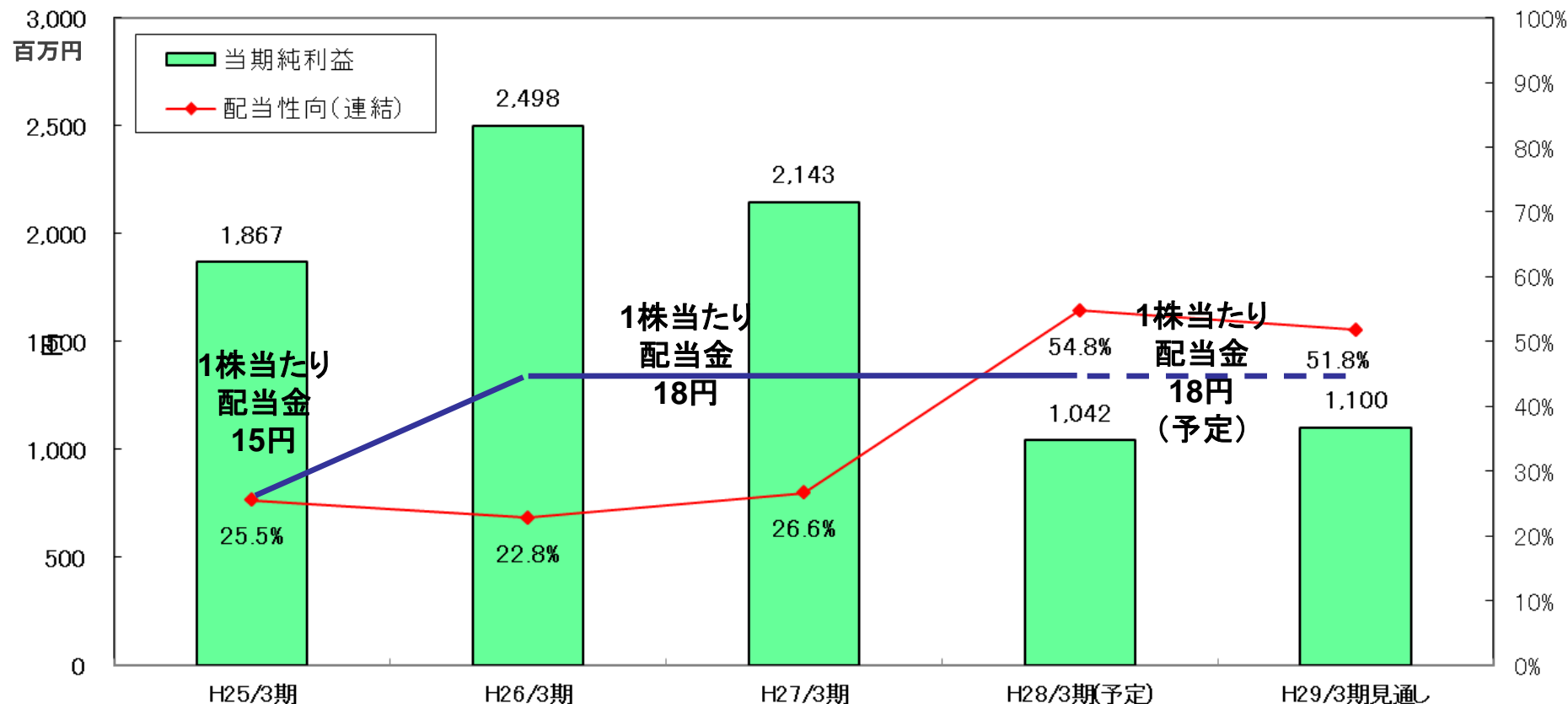
平成28年3月期(実績)
4,133百万円

平成29年3月期(見通し)
3,924百万円

フリーキャッシュフロー



株主還元 配当見通し



安定的な配当実施を目的とし、現行配当額1株18円の維持を下限目標とする

- 平成28年3月期 : 中間配当 8円 (実施) / 期末配当 10円 (予定)
合計 18円 / 配当性向54.8% (予定)
- 平成29年3月期 : 25億円までの部分 25% / 25億円を超える部分 35%
(見通し)
当期純利益が変動した場合の配当性向
1株18円の下限目標を維持 (予定)

サンコール株式会社 決算報告

1. 会社概要

2. 決算報告

- 平成28年3月期 決算要約
- 平成29年3月期 業績見通し

3. 中期経営方針

中期経営方針

中期経営方針：

『企業価値向上』を目指し、コア事業の経営資源の効率化と成長分野への投資による事業の拡大発展を進める。

1) 自動車関連事業

既存事業の基盤強化と拡大

自動車用線材生産能力引き上げによるグローバル最適生産・供給体制の構築

2) 電子情報通信事業

経営資源の集中と開発力、営業力の強化によるシェアの維持・拡大

3) 新規事業

自動車電動化部品の開発、新素材の研究開発、医療・環境事業への参入

中期経営方針

自動車関連事業

精密機能材料



各種線材

精密機能部品



エンジン系部品
弁ばね/ドライブプレート



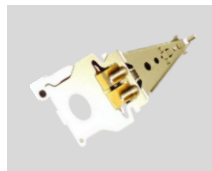
ミッション系部品
ダンパースプリング
リングギア



安全装置
ぜんまいばね

電子情報通信事業

サスペンション



ハードディスクドライブ用
サスペンション

プリンター関連



送紙ローラー
トルクリミッター
クラッチばね

デジトロ精密部品



光通信用コネクター/アダプター
テストプローブ・ピン
複写機用トナー搬送スクリュー

新規事業

EV/HV/PHV/FCV

KOA社共同開発



バスリング



シャントオン
バスバー
(大電流センサー)

環境・エネルギー



炭素材開発
量産化装置、
炭素材利用製品

医療・介護機器



装着型運動支援装置
リハビリテーション支援装置
開発、事業化

経営方針

基盤強化と拡大

自動車用線材生産能力引き上げ
・中国、メキシコの能力拡大
・日本/中国/メキシコによる最適生産・供給体制の構築

経営資源の集中と開発・営業力の強化

・HDD用サスペンション、デジトロ精密部品の成長市場への拡販

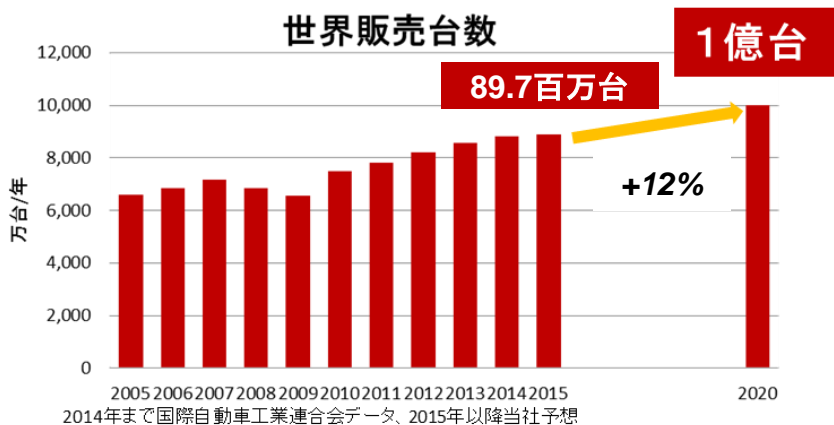
成長分野への参入

・自動車電動化部品開発
・新素材の研究開発
・医療・環境分野の事業化

中期経営方針 自動車関連事業

基盤強化と拡大：自動車用線材生産能力引き上げ

自動車需要予測



パワートレイン動向

	15年	20年	
ガソリン/ディーゼル車	約78 (87%)	75百万台 (75%)	△4%

地域別生産台数(予測)

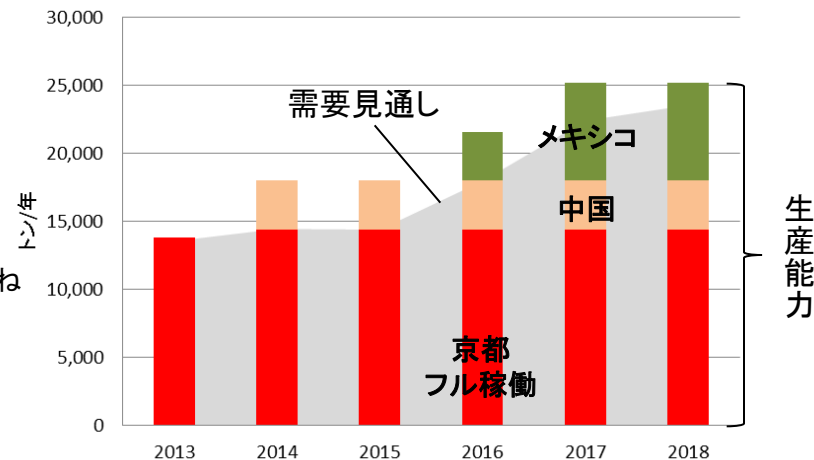
	15年	20年	
日本	9.3	9.3百万台	+0%
中国	24.5	28,5百万台	+16%
メキシコ	3.6	4.9百万台	+36%

エンジン弁ばね
需要増



エンジン/ミッション用ばね材料 需要及び生産能力

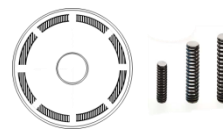
生産能力と需要見通し



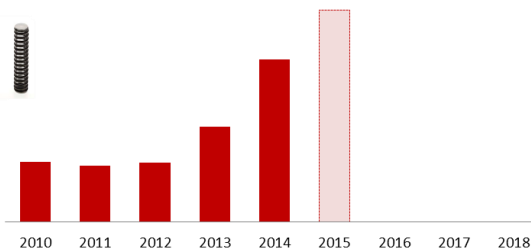
ミッション用ばね
受注増



ダンパースプリング



ダンパースプリングの売上

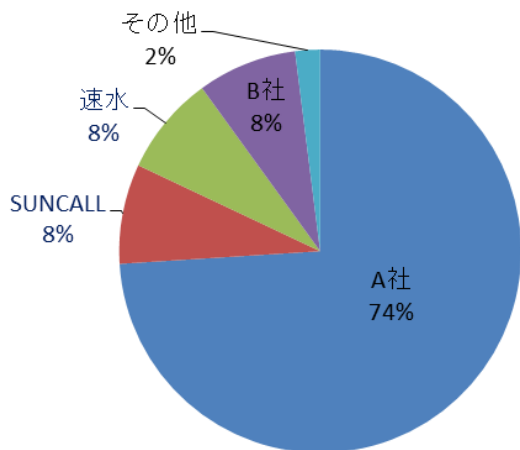


中期経営方針 自動車関連事業

基盤強化と拡大：自動車用線材生産能力引き上げ

シートベルト用ぜんまいばねと材料のシェア拡大

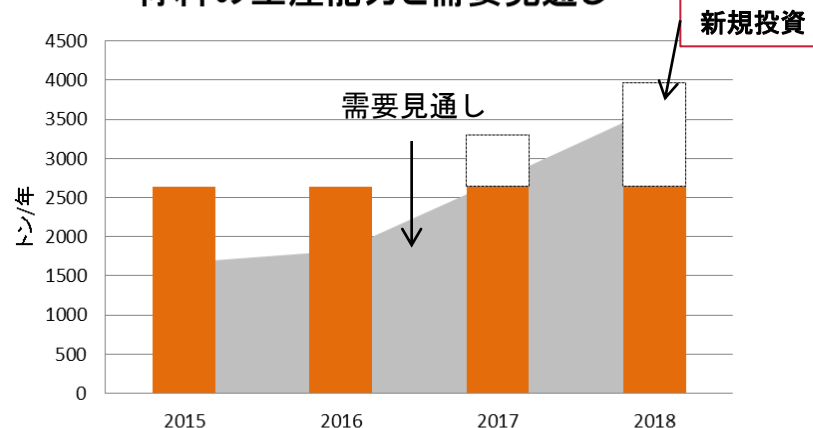
シートベルト用ぜんまいばねのシェア



- シートベルト用ぜんまいばね需要は増加予測
材料供給能力の増強とシェア拡大を目指す
- 韓国企業との合弁会社に材料製造を移管、材料の外販も伸ばす
- 速水発条との合弁会社(メキシコ)を通じて、ぜんまいばねの北米市場に参入

シートベルト用ばね材料 需要及び生産能力

材料の生産能力と需要見通し



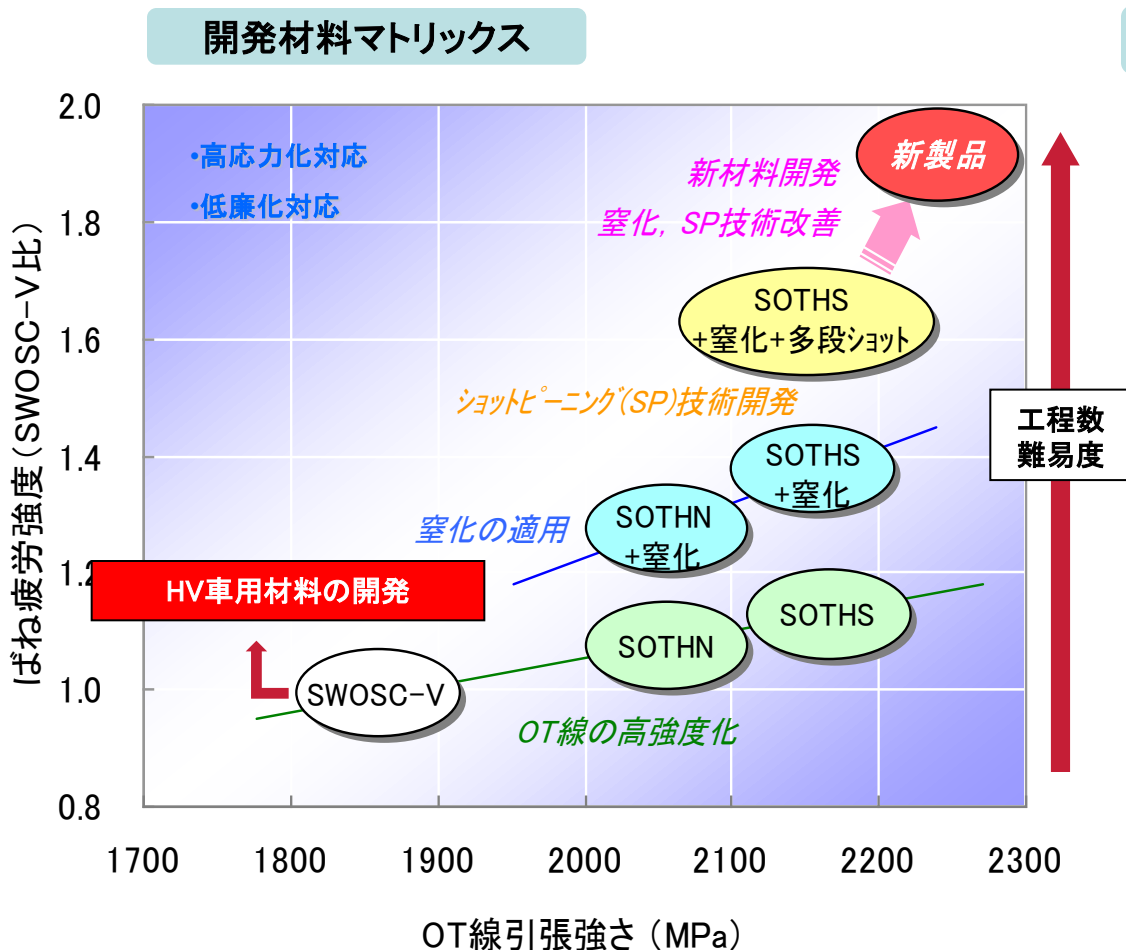
ぜんまいばね製造拠点



中期経営方針 自動車関連事業

基盤強化と拡大：材料開発

『材料から製品まで一貫生産』の強みを活かす



開発コンセプト

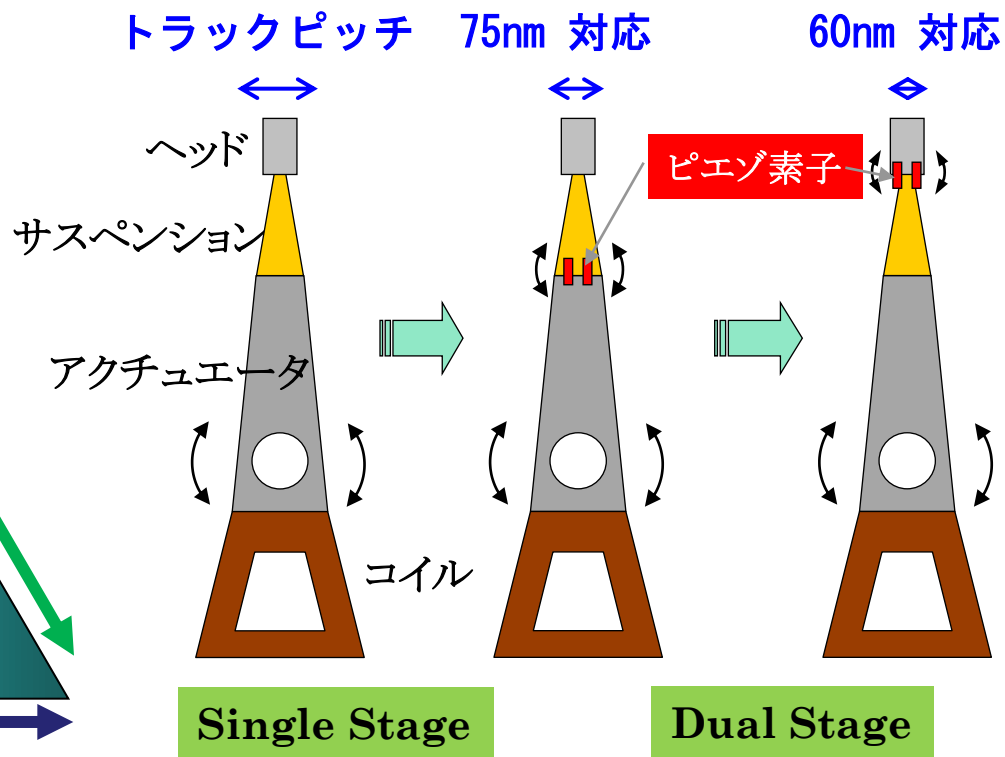
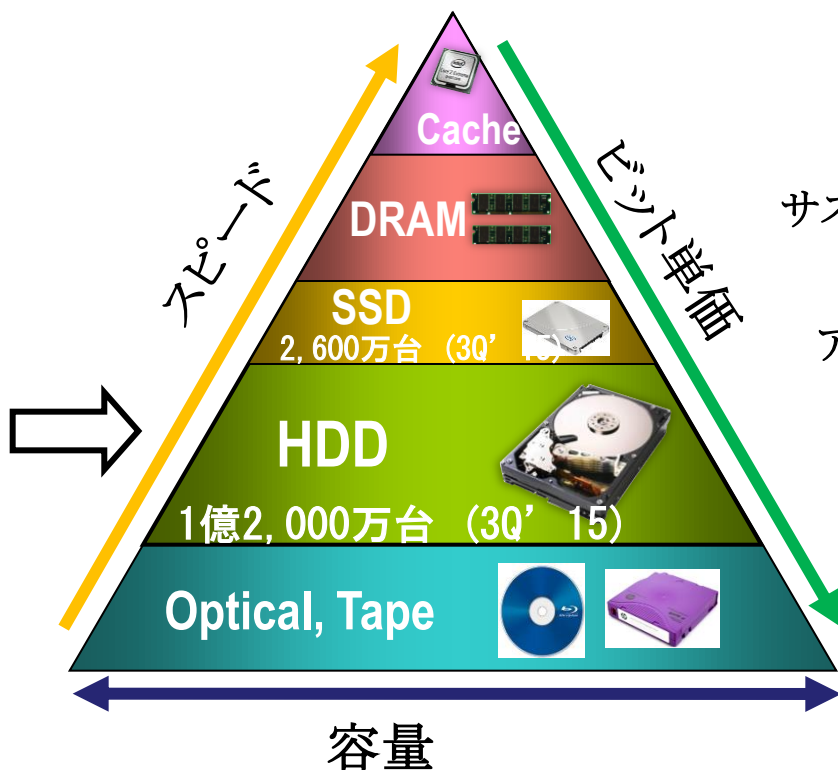
- 製品から材料へのフィードバック
 - お客様の製品に対する要求を、材料開発にまでフィードバックできる
 - サンコール強み
- HV車用弁ばね材料の開発
 - 高出力エンジンに比べ低強度でOK
 - 低廉化対応
- 新製品の開発
 - 高SPEC、新素材、新技術、新工法

工程数
難易度

中期経営方針 電子情報通信事業

経営資源の集中と開発力、営業力の強化 : ハードディスク用サスペンション

- 今後さらに増大するデータ量に対応するため、高密度・大容量が必要とされるデータセンター用HDDに搭載されるサスペンションに注力。
- 世界最高の記憶密度を支える第2世代マイクロアクチュエータ付き (Dual Stage) サスペンションを量産中でさらに生産能力を拡充。
- 省スペース・コンパクトな生産設備



中期経営方針 電子情報通信事業

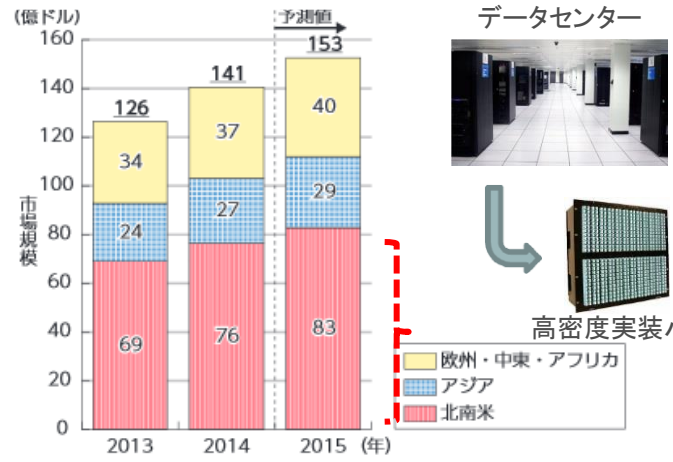
経営資源の集中と開発力、営業力の強化 : デジtro精密部品

ICT産業・成長分野におけるシェア拡大

ICT市場規模と成長性



データセンターの世界市場規模

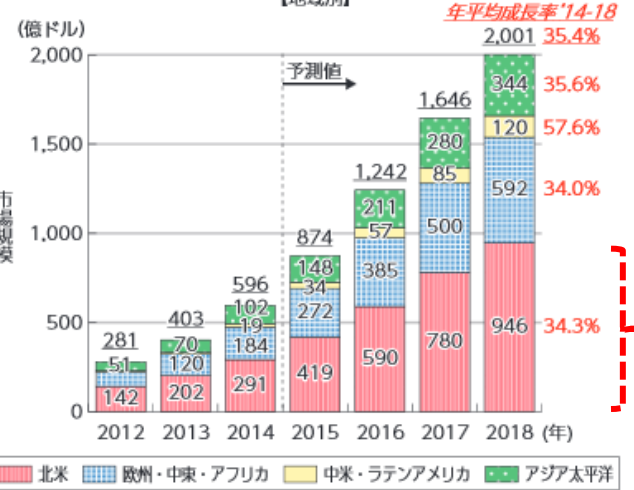


サンコール製品



高密度実装パネル

クラウドコンピューティングサービスの世界市場予測



光ネクタ世界市場規模



成長分野
クラウドサービス、北米/データセンター向けシェア拡大

将来データ使用用途
放送、医療、鉄道、船舶、航空、産業ロボット、自動車 + IoT etc.

参照情報: 総務省 情報通信白書

中期経営方針 新規事業

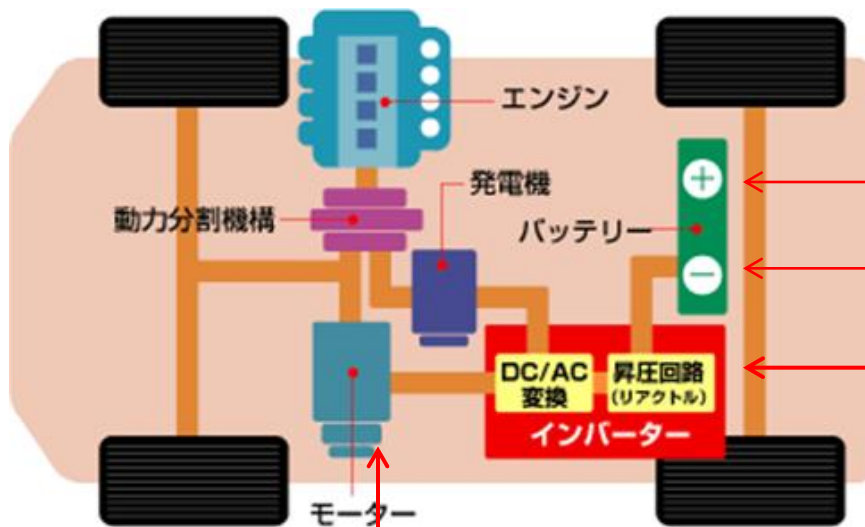
成長分野への参入：自動車電動化部品開発

EV/HV/PHV車需要予測

	'15年度		単位/百万台 '20年度(予測)	
	台数	比率	台数	比率
EV/HV/PHV	11.8	13%	26.0	26%
ガソリン・ディーゼル車	78.9	87%	74.0	74%
合計	90.7	100%	100.0	100%

サンコールの得意とする技術の融合による自動車電動化部品の開発

EV/HV/PHV車搭載部品



サンコール製造技術	塑性加工		
	コイリング	フォーミング	プレス
		バスリング	ローターコア
塗装	リアクトルコイル	バスバー	
接合		シャントオンバスバー *	

中期経営方針 新規事業

成長分野への参入：医療・介護機器

- ・ 産学共同開発による、医療・介護分野のコネクション、ネットワークの拡大
- ・ 医療機器製造販売業許可の取得
- ・ 当社の塑性加工技術の医療分野での用途開発

KAI-R事業

- ・ 医療機器：リハビリテーション用能動型膝関節アシスト装具
ひざ関節置換手術後のリハビリ用途

山梨大学・大日本印刷と共同開発

－ 事業化計画

	2016年度	2017年度	2018年度
	ライセンス取得	量産機生産準備	量産機生産
	医療機器製造業 許可申請		病院 リハビリ施設へ 販売

KAI-R



COIプログラム

- ・ 福祉・トレーニング機器：
トレーニング支援機能を有する装着型運動支援機器
脳卒中(対象：片麻痺患者130万人)のリハビリ用途

京都大学・京都工芸繊維大学と共同開発中

COI



中期経営方針 新規事業

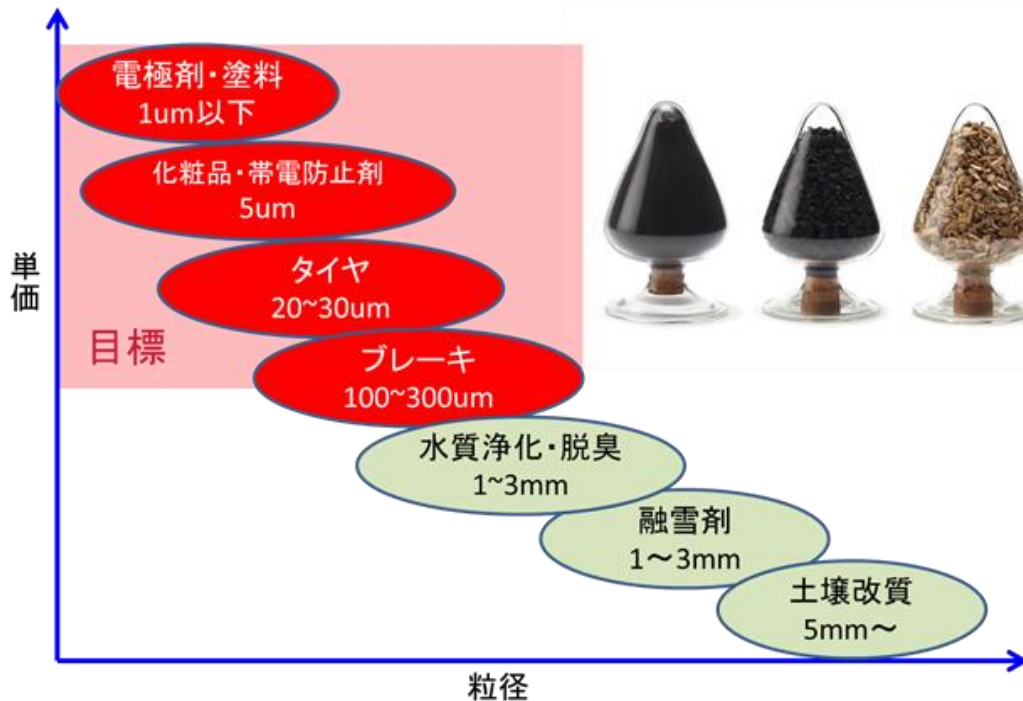
成長分野への参入：環境・エネルギー

宮津市の竹資源活用プロジェクトにおいて当社開発の過熱水蒸気装置を利用
 自社製設備にて材料から炭素材の量産化を実現

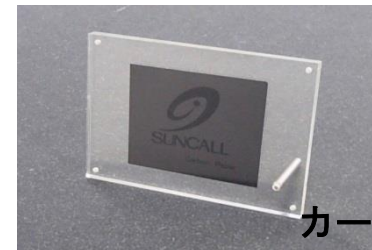
- 特徴： 高温水蒸気を使用した燃焼により、燃やさず炭にできる、CO2を排出しない
- ・ 小規模設備で爆発の危険がなく短時間(30~40分)で炭化可能

炭素サイズと用途

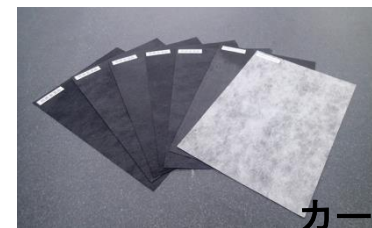
微粒径の粉碎技術を確認中



将来製品化に向けた試作品



カーボンペーパー

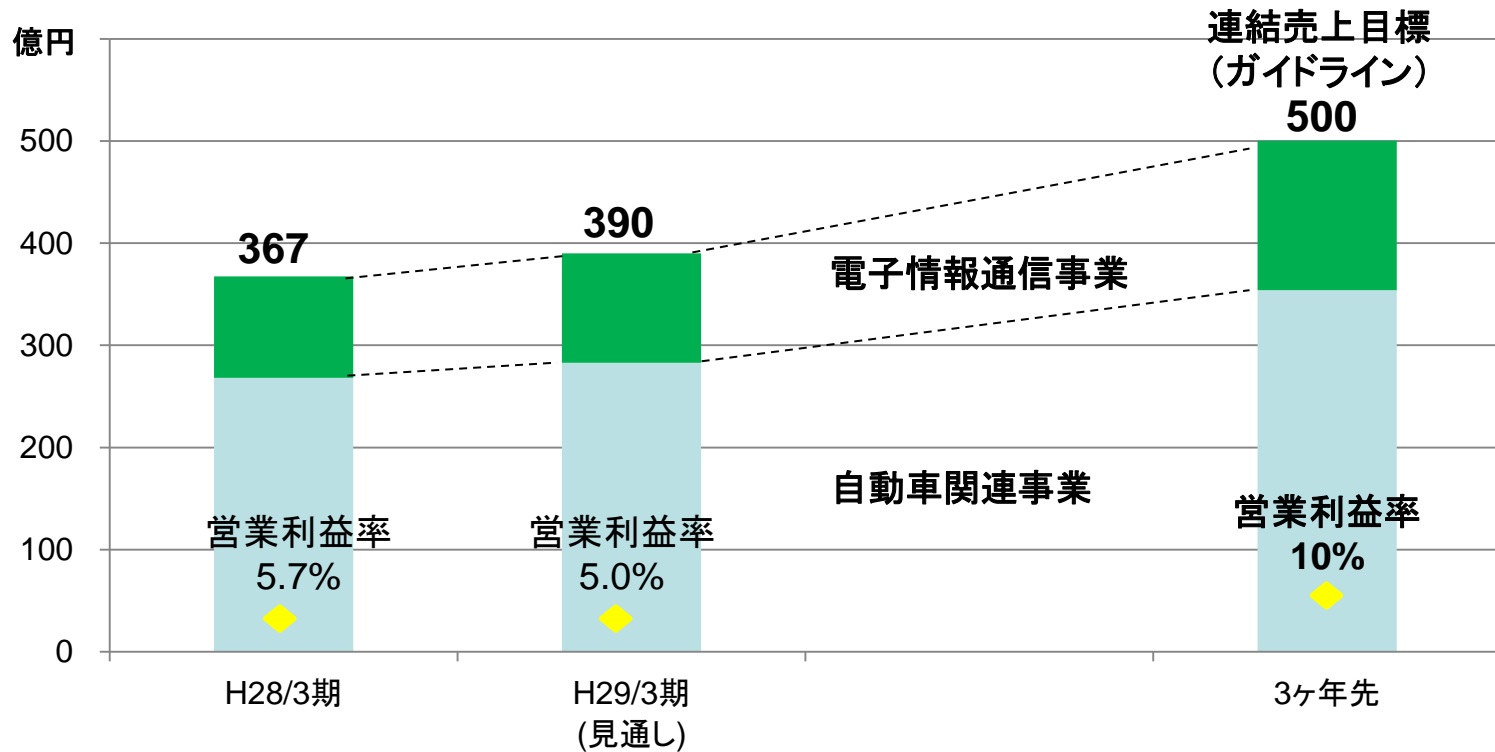


カーボン含浸シート



カーボン利用
一般生活商品

中期経営方針 定量イメージ



- 定量イメージ : 連結売上500億円 / 営業利益率 10%
投資金額 3ヶ年累計 120億円
- 配当金 (中期計画期間/2018年までの目標) :

 - 株主帰属当期純利益に対する配当性向
 - 25億円までの部分 25%
 - 25億円を超える部分 35%
 - 現行配当額1株18円の維持を下限目標とする

Fine Precision, Nano Solution

